

【高等学校用】

令和5年度学校評価 計画

達成度(評価)
 A:十分達成できている
 B:おおむね達成できている
 C:やや不十分である
 D:不十分である

学校名 佐賀県立牛津高等学校

1 前年度 評価結果の概要
 ・専門的な知識・技術を確実に定着させる取組は成果が出ており、就職内定率も県内の中でも高水準となっている。基礎学力については、後期に行った指導の結果を受けてのPDCAの再検討を行う必要がある。
 ・地域との協働活動については、教育課程内外問わず積極的に参加する生徒があり、地域貢献だけでなく生徒の資質能力の向上にも役立っているため、さらに参加する生徒のすそ野をさらに広げたい。
 ・学校魅力強化委員会(学校運営協議会)により、様々な立場からの有意義な意見を得ることができた。次年度以降はさらに委員内での議論等を活発にするよう、会議の進行の工夫に取り組みたい。
 ・学校の魅力発信については、様々な手法で行ったが、生徒募集という形での目に見える成果はそれほど得られなかった。今後も魅力発信の手法等を研究・実践し続ける必要がある。

2 学校教育目標
 変化の激しい時代にあっても常に志を強く持ち、知性と慈愛をもって人々の暮らしに安心と豊かさを提供し、よりよい未来を創造できる人材を育成する。
 また、住民との協働により、地域をデザインし地域に活力をもたらす存在であり続けること。

3 本年度の重点目標
 ・生徒の主体性伸長の支援
 ・生徒の進路希望実現につながる教育の質の向上

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○主体的な学びを重視した授業の推進 ○基礎学力と専門的な知識や技術の向上 ○学習習慣の定着	○アンケートで「学校で行われている授業で自分は主体的に取り組んでいる」と答えた生徒を80%以上にする。 ○学習トレーニングの主体的な取り組み状況を70%以上にする。 ○学力診断テストの学習力レベルが前年度より向上する生徒を70%以上にする。	・生徒が主体的に取り組めるような授業の工夫や改善に努める。 ・基礎学力診断テストのデータを分析した情報を職員間で共有し、課題の指導を行う。 ・家庭学習や校外学習のプロセスや成果をポートフォリオに記録させる。	・	・	・	・	・	・	進路指導主任 各教科・学科主任
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会的、倫理的な正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○授業や学校行事、講演会等を通して、倫理的観や正義感、自他の人権や生命を尊重する心を育み、豊かな心を身に付けさせる。 ○いじめの早期発見・早期対応に積極的に取り組んでいると回答する生徒・保護者の割合が80%以上。 ○いじめの一定期間内での解消100%。	・授業や学校行事等の学校生活において、生徒が自ら判断する場を設定し、自他の人権や生命を尊重する心を育む。 ・性に関する講演会、エイズ予防講演会、薬物乱用防止講話等の開催を通して、自分や他人を大切にすることを育成する。 ・学校生活アンケートを年間2回実施し、組織的にいじめの早期発見・早期対応を行う。 ・問題が発生した場合は、迅速に対策会議を開催し、組織的な対応を行う。	・	・	・	・	・	・	教務主任 生徒支援主任 保健指導主任 教頭 学年主任
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「健康に良い食事をしている」と考える生徒を60%にする。	・朝食の大切さについて、保健だよりで発信する。 ・食に関するアンケート調査を行う。 ・家庭科の授業と連携し、望ましい食習慣について考える機会を持たせる。	・	・	・	・	・	・	保健指導主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・学校閉庁日の設定、年次休暇の積極的取得を推奨し、教職員の心身の健康増進に努めていく。 ・学校行事の精選に努めるとともに、校内の諸会議を勤務時間内に設定・実施する。 ・業務の適正化を図り、効果的な教育活動の実践に努めていく。	・	・	・	・	・	・	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	◎★志を高め、他人のために働くことができる生徒の育成	★専門的知識・技術の獲得意欲が向上した生徒80% ★「仕事」に対する理解が高まった生徒70% ★「働くことへの意欲」が高まった生徒70% ★職業人としての資質の向上70% ★「地域を思い、貢献したい」という気持ち」が向上した生徒70%	・職場体験を取り入れた「総合的な探究の時間」では、「仕事」「働くこと」についての理解、意欲を向上させる。 ・「地域活性化」をテーマとした学校設定科目「起業家入門Ⅰ・Ⅱ」「課題研究」では、地域に貢献したい気持ちや起業家マインドを育成する。 ・学校説明会等を通して魅力を伝えるとともに、体験入学・学校見学会を実施し、模擬授業や実際の作品に触れる機会を拡大する。 ・ホームページ等により県内外への発信を行うとともに、進学可能な県外中学校へ出向いての説明を行う。	・	・	・	・	・	・	家庭科主任 主幹教諭
	★選ばれる学校に向けた県内外への情報発信	★県外からの入学者数を2人以上にする。 ★志願者数(入学者数)の増加 令和5年度選抜よりも入学者数10%増	・学校説明会等を通して魅力を伝えるとともに、体験入学・学校見学会を実施し、模擬授業や実際の作品に触れる機会を拡大する。 ・ホームページ等により県内外への発信を行うとともに、進学可能な県外中学校へ出向いての説明を行う。	・	・	・	・	・	・	教務主任 主幹教諭
	★魅力化評価システムを活用した学校改善	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合85%以上、教職員の割合90%以上 ★アンケートの「社会性にかかわる学習活動」に関する項目で肯定的に答えた生徒の割合50%	・様々な活動を通して、自己肯定感を持たせるような工夫をする。 ・地域との連携事業において、地域の資源や課題・課題解決について考える活動を入れたり、関わる生徒の数を増やしてそのを広げる。	・	・	・	・	・	・	・

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望